



発 行 所

仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号  
法人 宮城県畜産協会  
電話 022-298-8473

編 集 発 行 人

木 村 春 雄

印 刷 所

(株)東北プリント



ふれあい体験交流推進事業 加工調理体験教室

(2月23日開催 会場 明成高等学校)

も く じ

C O N T E N T S

平成20年度畜産施策の基本方針と主要施策 ……2-5	<畜試便り> 新しい飼料作物奨励品種の紹介 ……9
宮城県の組織改正について ……6	<衛生便り> 「トリアシカイセンダニ症」をご存じですか ……10
予防が大切牛炭疽 発生すれば大きな被害 ……6	<実践大生生の抱負> 私の将来の夢 ……10
平成20年度畜産物価格関連対策が決定しました ……7	<人の動き> ……11-12
平成20年度肉用牛現場後代検定牛の 産子取得交配(調整交配)について ……8	

みやぎの  
畜産情報  
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>  
Eメール [info@mygchiku.or.jp](mailto:info@mygchiku.or.jp)



古紙パルプ配合率70%の再生紙と、  
植物性大豆油インキを使用しています。

# 平成20年度畜産施策の基本方針と主要施策

## 宮城県農林水産部畜産課

### I 基本方針

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物の需要に支えられ、農業産出額の35%を占めるまでに成長し、畜産主産県としての位置を確立しています。また、畜産物の生産という本来的な役割に加え、生産活動を通じた環境の保全さらには、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしています。

平成18年9月以降、急速に上昇したトウモロコシ価格は他の飼料用穀物の価格にも波及し、輸入飼料全般の高騰につながりました。中国・インドなど人口大国の持続的成長による食糧需要の急増やバイオエタノール需要の拡大により、世界の穀物需要の構造が変化しており、安価な輸入飼料への依存から脱却することが求められています。

また、安全・安心な食品に対する消費者の関心の高まり、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化、担い手を中心とする強い農業づくり、環境への負荷軽減、WTOやEPA交渉による国際化への対応、さらには、国内外での高病原性鳥インフルエンザの発生など、平成の畜産危機といっても過言ではない状況にあります。

県では、「みやぎ食と農の県民条例」(平成12年7月10日公布)及び「みやぎ食の安全安心推進条例」(平成16年3月23日公布)に基づき、農業・農村振興や食の安全安心確保の実現に向けた関係施策を総合的に推進しております。

また、平成17年度に見直した「宮城県酪農及び肉用牛生産近代化計画」及び「宮城県家畜改良増殖計画」は、本県が自給飼料基盤に立脚した畜産主産地として、一層競争力を強化するための総合的な指針であり、酪農及び肉用牛生産が有する機能や役割等を踏まえた酪農及び肉用牛生産の振興方向を示しております。

平成20年度の具体的な施策としては、飼料価格高騰対策と肉用牛生産振興に重点をおき、耕畜連携による自給飼料の生産振興、家畜の生産性向上、エコフィードの推進とともに、肉質と肉量を兼ね備えた肉用牛生産体制の確立に取り組みます。また、サーベイランスやモニタリング検査等により、引き続き高病原性鳥インフルエンザの発生予防対策や家畜衛生対策の強化を図ります。さらに、生産性の高い酪農経営を目指した牛群の改良やヘルパー制度の充実を図ります。併せて、系統豚「しもふりレッド」の生産供給体制の維持を図るとともに、抗病性と産子数の増加などの特長を加えた新たなランドレース種の系統造成を引き続き実施していきます。畜産環境対策としては、簡易処理で家畜排せつ物処理の対応をしている農家の施設整備と併せて、たい肥保管庫を整備し、家畜排せつ物の利用促進を進めます。

なお、これら施策の展開に当たっては、「飼料価格高騰に負けない宮城の強い畜産」をスローガンに、次の七項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、富県戦略の一翼を担う産業としての幅広い視点から総合的な施策を展開してまいります。

- 1 飼料価格高騰に対応する畜産経営への支援
- 2 家畜衛生と畜産物の安全性の確保
- 3 みやぎの優良肉用牛生産の振興
- 4 先進的な養豚経営の振興
- 5 生産性の高い多様な酪農経営の振興
- 6 快適な畜産環境の実現
- 7 新たな畜産技術の開発と活用

### II 主要施策

#### 1 飼料価格高騰に対応する畜産経営への支援

飼料の価格高騰は構造的な問題であり、今後とも高値安定する可能性が高いという視点から、短期的には畜産経営の安定のための資金的対応、中期的には自給飼料の確保やエコ・フィードの推進、長期的には飼養管理技術の改善による生産性向上に向けた取り組みを推進します。

##### (1) 飼料価格高騰対策

○「飼料価格高騰対策支援事業」により、稲発酵粗飼料用稲奨励品種の普及と種子確保や食品残さの飼料的利用の拡大及び家畜生産性の向上による低コスト化を推進します。

##### (2) 飼料生産基盤対策

○「畜産基盤再編総合整備事業」により、仙南西部地区、とめ地区において、飼料基盤や農業用施設等の整備を行い、新たな畜産主産地の形成を推進します。

○「自給飼料生産総合推進事業」により、自給飼料の増産や公共牧場の利用促進を図るとともに、水田農業関連の施策とあわせて、水田の有効利用を推進します。

○「県営草地整備事業」により、仙南南部地域の公共牧場等を対象に、効率的な飼料生産体制等の確立のための基盤及び施設・機械整備を実施します。

##### (3) 畜産振興推進対策

○「畜産振興事業等指導事業」により、飼料購入に係る資金や負債の借換え資金の貸付や都府県酪農緊急経営強化対策への支援など、畜産物価格関連の対策を行い、畜産経営の安定を総合的に図ります。

#### 2 家畜衛生と畜産物の安全性の確保

BSEや高病原性鳥インフルエンザをはじめとする家畜伝染性疾患の発生予防とまん延防止を目的として、各種検査や飼養衛生管理の指導を行い、健康な家畜の生産及び安全な畜産物の安定的な供給を図ります。

また、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料製造工場や販売店への立入検査を実施し、県内で流通する飼料の栄養成分や安全性についての分析を行います。

##### (1) 家畜伝染病対策

○「家畜伝染病予防事業」により、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等の人獣共通感染症をはじめ、牛・豚・鶏・馬・みつばち等の各種伝染性疾患の検査及びこれに関連する防疫対策を行い、家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図ります。

##### (2) 家畜保健衛生対策

○「家畜衛生対策事業」により、慢性疾病等による経済的被害を低減させるため、各種検査・飼養衛生管理指導を行うとともに、動物用医薬品の適正使用を監視・指導します。

##### (3) 飼料安全対策

○「流通飼料対策事業」により、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料製造工場や販売業者への立入検査を実施し、県内で流通する飼料の栄養成分や安全性についての分析を行うとともに、農家段階における適正な飼料給与を推進します。

#### 3 みやぎの優良肉用牛生産の振興

産地間競争の激化や高齢化により、肉用牛飼養農家が減少する中で、肉質・肉量ともに優れた肉用牛生産

体制を確立するため、優良種雄牛を活用した肉用牛の改良に取り組むとともに高品質牛肉や値頃感のある牛肉の生産を進め、肉用牛経営の安定を図っていきます。また、専門家による支援指導体制を確立し、畜産経営体の経営・生産技術の高度化を図ります。

#### (1) 肉用牛改良対策

- 「肉用牛集団育種推進事業」による優れた種雄牛の造成と、能力の高い種雌牛整備のため「家畜導入事業」に取り組み、高品質のブランド牛肉「仙台牛」と「仙台黒毛和牛」の産地化を一層推進します。
- 「受精卵移植等実用化確立事業」を活用した高能力牛の生産支援と生産向上のための遺伝子解析を進めます。

#### (2) 肉用牛経営安定対策

- 「肉用牛価格安定対策事業」の積極的な活用を推進し、経営の安定と体質強化を図ります。
- 「畜産経営技術高度化促進事業」を積極的に推進し、畜産コンサルタントによる経営分析指導や増頭意欲のある農業者への積極的な支援、肉用牛生産農家の生産経営情報の活用、組織的な改良対策を進めることで、経営感覚に優れた経営体を育成します。

### 4 先進的な養豚経営の振興

本県で造成した系統豚「ミヤギノ」と「しもふりレッド」の効率的な利用と供給体制を確立し、「ミヤギノ」と「しもふりレッド」を活用した銘柄豚「宮城野豚」(ミヤギノポーク)の銘柄確立を一層進めるとともに、新たなランドレース種の系統造成に引き続き取り組み、安全で安心な本県独自の銘柄豚の生産による安定的な養豚経営を推進します。

#### (1) 豚改良対策

- 「優良種豚選抜推進事業」により、本県独自の雄型系統豚「しもふりレッド」の維持・増殖を図り、養豚農家への種豚供給体制を確立します。
- 「新系統豚造成事業」による「ミヤギノ」に代わる新たなランドレース種の系統造成が第5世代をもって終了予定であり、普及体制を検討していきます。

#### (2) 養豚経営安定対策

- 豚肉の価格安定制度への加入促進を図り、県内産豚肉の安定供給と養豚農家の経営安定を推進します。

### 5 生産性の高い多様な酪農経営の振興

酪農経営の生産性向上を図るため、体外受精卵移植など新技術を活用した肉用牛の生産による所得確保と乳用牛群の改良増殖を積極的に推進します。また、意欲ある担い手の育成確保を図るため、酪農ヘルパー等の支援組織の利用拡大を図るとともに、乳業の再編・合理化を進め、生乳の流通合理化と適切な需給調整体制を整備します。

#### (1) 乳用牛改良対策

- 「乳用牛群検定普及定着化事業」により、乳用牛群の改良増殖を推進し、牛群の能力と生乳生産性の向上を図るとともに、牛群検定実施の推進を図ります。
- 「乳用牛群検定指導強化事業」により、検定指導員を対象とした研修会を開催し、効果的な検定実施体制の整備を図ります。

#### (2) 酪農経営安定対策

- 「加工原料乳生産者補給金制度」、「都府県酪農緊急経営強化対策」等の各種畜産物価格関連対策の積極的な活用を推進し、経営の安定と体質強化を図ります。
- 「酪農ヘルパー事業円滑化対策事業基金」により、ヘルパー制度の普及定着を進めるとともに、担い手の育成確保に努め、ゆとりある経営の維持を図ります。

#### (3) 牛乳・乳製品等流通対策

- 「生乳流通改善対策事業」により、指定生乳生産者団体と連携し、需給動向を踏まえた生乳の計画生産と流通改善を推進します。
- 「学校給食用牛乳供給事業」により、県内産牛乳を小中学校に安定的に供給し、児童・生徒の心身の健全な発育と体位の向上を図ります。

### 6 快適な畜産環境の実現

畜産環境については、畜産公害を防止するため、家畜排せつ物法の遵守を指導するとともに家畜排せつ物の有効利用を促進します。

#### みやぎの快適畜産総合対策

- 「資源リサイクル畜産環境整備事業」により、引き続き広域たい肥センター等の整備を進めるほか、「家畜排せつ物広域流通円滑化事業」により、たい肥の流通促進を図り、地域の家畜排せつ物の適切な処理と利用を推進します。
- 「資源循環型畜産確立対策事業」により、畜産環境対策技術者養成等を行うほか、「たい肥施用技術確立事業」により、肥料成分の高いたい肥センター生産たい肥の利用技術を確立し、家畜排せつ物の利用促進を図ります。
- 「畜産環境整備リース事業」により、家畜排せつ物処理施設機械等の整備を進めます。

### 7 新たな畜産技術の開発と活用

国内外の産地との競争力強化や飼料価格高騰対策のため、生産性の向上や新たな畜産技術の開発と活用を推進します。

#### (1) バイオテクノロジー技術の開発と実用化対策

- 「受精卵移植等実用化確立事業」により、受精卵移植技術普及のために課題となる技術的問題点の解決を図り、受精卵確保と活用体制の整備を図ります。
- さらに、生産性向上のため、遺伝子レベルの家畜改良技術の確立を推進します。

#### (2) 新技術の利用と普及対策

- 受精卵移植技術により優良種牛生産を促進するとともに育種改良への利用を図ります。また、稲ホークロップサイレージ等については、多収が見込める飼料専用品種の普及を推進します。

#### (3) 新技術の研究開発

- 各畜種の生産性向上、家畜ふん尿の効率的な処理、飼料作物の増収技術等、新技術の研究開発を推進します。



# 平成20年度畜産施策の基本方針と主要施策

## 飼料価格高騰に負けない宮城の強い畜産

宮城県の家畜飼養状況

乳用牛	27,500頭	全国9位
肉用牛	96,500頭	全国7位
豚	221,300頭	全国15位
採卵鶏	4,290千羽	全国15位
ブロイラー	2,046千羽	全国12位

(H19.2.1現在)

I 飼料価格高騰に対応する畜産経営への支援	 稲WCS刈取	<p>◆飼料価格高騰対策 <span style="float:right">【5,410千円】</span>          ・「飼料価格高騰対策支援事業」により、稲発酵粗飼料用稲奨励品種の普及と種子確保や食品残さの飼料的利用の拡大及び家畜生産性の向上による低コスト化を推進する。</p> <p>◆飼料生産基盤対策 <span style="float:right">【455,284千円】</span>          ・畜産基盤再編総合整備事業等各種事業により、飼料基盤や施設等の整備を行い中核的な畜産農家を育成する。</p> <p>◆畜産振興推進対策 <span style="float:right">【5,404千円】</span>          ・「畜産振興事業等指導事業」により、飼料購入に係る資金や負債の借換え資金の貸付や都府県酪農緊急経営強化対策への支援など、畜産物価格関連の対策を行い、畜産経営の安定を総合的に図る。  <span style="float:right">【466,098千円】</span></p>
II 安全性の確保 家畜衛生と畜産物の	 鶏舎の石灰散布	<p>◆家畜伝染病予防対策 <span style="float:right">【53,117千円】</span>          ・家畜伝染病予防事業により、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等の人獣共通感染症をはじめ、牛・豚・鶏・馬・みつばち等の各種伝染性疾患の検査及び関連する防疫対策を行い、家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図る。</p> <p>◆家畜保健衛生対策 <span style="float:right">【39,750千円】</span>          ・慢性疾病等による経済的被害を低減させるため、各種検査・飼養衛生管理指導や動物用医薬品の適正使用を監視・指導する。</p> <p>◆飼料安全対策 <span style="float:right">【2,088千円】</span>          ・法に基づく飼料製造工場や販売業者への立入検査を実施し、県内で流通する飼料の栄養成分や安全性についての分析を行うとともに、農家段階における適正な飼料給与を推進する。  <span style="float:right">【94,955千円】</span></p>
III 生産の振興 みやぎの優良肉用牛	 種雄牛「茂洋」	<p>◆肉用牛改良対策 <span style="float:right">【86,009千円】</span>          ・優れた種雄牛の造成と、能力の高い種雌牛整備のため「肉用牛集団育種推進事業」に取り組み、高品質のブランド牛肉「仙台牛」と「仙台黒毛和牛」の産地化を一層推進する。          ・受精卵移植技術を活用した高能力牛の生産支援と生産向上のための遺伝子解析を進める。</p> <p>◆肉用牛経営安定対策 <span style="float:right">【144,490千円】</span>          ・「肉用牛価格安定対策事業」の積極的な活用を推進し、経営の安定と体質強化を図る。          ・畜産コンサルタントによる経営分析指導や増頭意欲のある農業者への積極的な支援、肉用牛生産農家の生産経営情報の活用、組織的な改良対策を進めることで、経営感覚に優れた経営体を育成する。  <span style="float:right">【230,499千円】</span></p>
IV 振興 先進的な養豚経営の	 期待の系統豚「しもふりレッド」	<p>◆豚改良対策 <span style="float:right">【45,972千円】</span>          ・本県独自の雄型系統豚「しもふりレッド」の維持・増殖を図り、養豚農家への種豚供給体制を確立する。          ・「ミヤギノ」に代わる新たなランドレース種の系統造成が第5世代をもって終了予定であり、普及体制を検討していく。</p> <p>◆養豚経営安定対策 <span style="float:right">【14,349千円】</span>          ・豚肉の価格安定制度への加入促進を図り、県内産豚肉の安定供給と養豚農家の経営安定を推進する。  <span style="float:right">【60,321千円】</span></p>
V 酪農経営の振興 生産性の高い多様な	 本吉育成牧場	<p>◆乳用牛改良対策 <span style="float:right">【29,967千円】</span>          ・乳用牛群の改良増殖を推進し、牛群の能力と生乳生産性の向上と牛群検定実施の推進を図る。          ・検定指導員を対象とした研修会を開催し、効果的な検定実施体制の整備を図る。</p> <p>◆酪農経営安定対策 <span style="float:right">【686千円】</span>          ・「加工原料乳生産者補給金制度」等の活用を推進し、経営の安定と体質強化を図る。          ・ヘルパー制度の普及定着と担い手の育成確保に努め、ゆとりある経営の維持を図る。</p> <p>◆牛乳・乳製品等流通対策 <span style="float:right">【1,035千円】</span>          ・指定生乳生産者団体と連携し、需給動向を踏まえた生乳の計画生産と流通改善を推進する。          ・県内産牛乳を学校給食として小中学校に安定的に供給し、心身の健全な発育と体位の向上を図る。  <span style="float:right">【31,688千円】</span></p>
VI 現 快適な畜産環境の実	 南方有機センター	<p>◆みやぎの快適畜産総合対策 <span style="float:right">【345,668千円】</span>          ・「資源リサイクル畜産環境整備事業」により、引き続き広域たい肥センター等の整備を進めるほか、「家畜排せつ物広域流通円滑化事業」により、たい肥の流通促進を図り、地域の家畜排せつ物の適切な処理と利用を推進する。          ・「資源循環型畜産確立対策事業」により、畜産環境対策技術者養成等を行うほか、「たい肥施用技術確立事業」により、肥料成分の高いたい肥センター生産たい肥の利用技術を確立し、家畜排せつ物の利用促進を図る。          ・「畜産環境整備リース事業」により、家畜排せつ物処理施設機械等の整備を進める。  <span style="float:right">【345,668千円】</span></p>
VII 発 新たな畜産技術の開	 南安平のクローン牛	<p>◆バイオテクノロジー等の開発と活用 <span style="float:right">【7,826千円】</span>          ・受精卵移植技術普及のために課題となる技術的問題点の解決を図り、受精卵確保と活用体制の整備を図る。さらに、生産性向上のため、遺伝子レベルの家畜改良技術の確立を推進する。</p> <p>◆新技術の利用と普及対策 <span style="float:right">【45,227千円】</span>          ・受精卵移植技術により優良種牛生産を促進するとともに育種改良への利用を図る。また、稲ホールクroppサイレージ等については、多収が見込める飼料専用品種の普及を推進する。</p> <p>◆新技術の研究開発 <span style="float:right">【14,949千円】</span>          ・各畜種の生産性向上、家畜ふん尿の効率的な処理、飼料作物の増収技術等、新技術の研究開発を推進する。  <span style="float:right">【68,002千円】</span></p>

畜産課予算合計

2,396,932千円

## 平成20年度畜産関係事業施策体系

平成20年 4月 1日現在

		畜産課事業予算額合計	1,221,408	◎印は新規事業	単位：千円
		人件費	1,069,774		
		事務費・管理費等	105,750		
		総合計	2,396,932		
		予算額			担当班名
1	飼料価格高騰に対応する畜産経営への支援	466,098			
(1)	飼料価格高騰対策	5,410			
	└ 飼料価格高騰対策事業		5,410		企画管理・草地飼料
(2)	飼料生産基盤対策	455,284			
	└ 公共牧場経営基盤強化対策事業		100,000		
	└ 畜産基盤再編総合整備事業		347,674		草地飼料
	└ 土地資源活用飼料基盤拡大基本調査事業		300		草地飼料
	└ 自給飼料生産総合推進事業		7,310		草地飼料
(4)	畜産振興推進対策	5,404			
	└ 畜産振興事業等指導事業		3,252		企画管理
	└ 大家畜経営体質強化資金利子補給事業		323		企画管理
	└ 大家畜経営活性化資金利子補給事業		268		企画管理
	└ 畜産技術研修等円滑化事業		449		企画管理
	└ 畜産特別資金融通円滑化事業		484		企画管理
	└ 大家畜経営改善支援資金利子補給事業		36		企画管理
	└ 畜産振興総合対策推進指導事業		592		企画管理
2	家畜衛生と畜産物の安全性の確保	94,955			
(1)	家畜伝染病予防対策	53,117			
	└ 家畜伝染病予防事業		53,117		衛生安全
(2)	家畜保健衛生対策	39,750			
	└ 家畜保健衛生費		25,043		衛生安全
	└ 動物用医薬品等取締指導費		330		衛生安全
	└ 家畜衛生対策事業		14,377		衛生安全
(3)	飼料安全対策	2,088			
	└ 流通飼料対策事業		2,088		衛生安全
3	みやぎの優良肉用牛生産の振興	230,499			
(1)	肉用牛改良対策	86,009			
	└ 肉用牛集団育種推進事業		39,817		生産振興
	└ 家畜導入事業		37,771		生産振興
	└ 家畜改良促進事業		595		生産振興
	└ 受精卵移植等実用化確立事業		7,826		生産振興
(2)	肉用牛経営安定対策	144,490			
	└ 岩出山牧場管理運営費		94,132		生産振興
	└ 肉用牛価格安定対策事業		36,009		生産振興
	└ 畜産経営技術高度化促進事業		14,349		生産振興
4	先進的な養豚経営の振興	60,321			
(1)	豚改良対策	45,972			
	└ 優良種豚選抜推進事業		27,696		生産振興
	└ 新系統豚造成事業		18,276		生産振興
(2)	養豚経営安定対策	14,349			
	└ 畜産経営技術高度化促進事業	(再掲)	14,349		生産振興
5	生産性の高い多様な酪農経営の振興	31,688			
(1)	乳用牛改良対策	29,967			
	└ 乳用牛群検定普及定着化事業		8,059		生産振興
	└ 乳用牛群検定指導強化事業		13,487		生産振興
	└ 家畜改良促進事業	(再掲)	595		生産振興
	└ 受精卵移植等実用化確立事業	(再掲)	7,826		生産振興
(2)	酪農経営安定対策	686			
	└ 酪農経営安定対策事業		686		企画管理
(3)	牛乳・乳製品等流通対策	1,035			
	└ 学校給食用牛乳供給事業		272		企画管理
	└ 生乳流通改善対策事業		763		企画管理
6	快適な畜産環境の実現	345,668			
	└ みやぎの快適畜産総合対策	345,668			
	└ 資源リサイクル畜産環境整備事業		327,544		草地飼料
	└ 資源循環型畜産確立対策事業		859		草地飼料
	└ 畜産環境整備リース事業		265		草地飼料
	└ 家畜排せつ物広域流通円滑化事業		16,500		草地飼料
	└ たい肥施用技術確立事業		500		草地飼料
7	新たな畜産技術の開発と活用	68,002			
(1)	バイオテクノロジー等の開発と実用化対策	7,826			
	└ 受精卵移植等実用化確立事業	(再掲)	7,826		生産振興
(2)	新技術の利用と普及対策	45,227			
	└ 肉用牛集団育種推進事業	(再掲)	39,817		生産振興
	└ 飼料価格高騰対策事業	(再掲)	5,410		企画管理・草地飼料
(3)	新技術の研究開発	14,949			
	└ 県単独試験研究費(畜試)		8,906		企画管理
	└ 国庫補助試験研究費：指定試験(畜試)		693		企画管理
	└ 受託試験研究費(畜試)		5,350		企画管理

(企画管理班 村上 哲也)

# 「宮城県の組織改正について」

## 宮城県農林水産部畜産課

平成20年4月1日から、県の組織再編に伴い、家畜保健衛生所と地方振興事務所の名称や所管区域が変わりました。

なお、業務内容や所在地、電話番号は従前のおりて変更がありません。

### ◎家畜保健衛生所（名称と所管区域の変更）

	旧	新（4月1日から）
名称	大崎家畜保健衛生所	北部家畜保健衛生所
所管区域	大崎市、加美郡、遠田郡	栗原市、大崎市、加美郡、遠田郡

	旧	新（4月1日から）
名称	登米家畜保健衛生所	東部家畜保健衛生所
所管区域	気仙沼市、登米市、栗原市、本吉郡	石巻市、気仙沼市、登米市、東松島市、牡鹿郡、本吉郡

- ・栗原市については、登米家畜保健衛生所から北部家畜保健衛生所の所管になります。
- ・石巻市、東松島市、牡鹿郡については、仙台家畜保健衛生所から東部家畜保健衛生所の所管になります。

### ◎地方振興事務所畜産振興部（名称の変更）

	旧	新（4月1日から）
大崎地方振興事務所畜産振興部		北部地方振興事務所畜産振興部
栗原地方振興事務所畜産振興部		北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部
登米地方振興事務所畜産振興部		東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部
石巻地方振興事務所畜産振興部		東部地方振興事務所畜産振興部

(企画管理班 高橋 幹夫)

# 予防が大切 牛炭疽 発生すれば大きな被害

## 社団法人 宮城県畜産協会

対象家畜について	生後3ヶ月以上の乳牛及び他の同居牛（和牛も含め全頭実施が原則）
予防方法について	炭疽は年1回の予防接種を行うことにより、防ぐことができますので、地元市町村窓口及び酪農組合または農協等へ申し込んで下さい。
予防接種時期について	4月～5月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛の体調不良等の場合は改めて日程調整を行い実施する。</li> <li>・注射実施後に、発熱、接種部位の腫脹等を起こすことがあります。</li> <li>・異常があった場合は、ワクチンを接種した獣医師にご一報願います。</li> </ul>
注射手数料について	600円/頭（消費税含む）

### 牛炭疽とは！

- ★炭疽病は細菌（炭疽菌）がもたらす人畜共通伝染病です。
- ★「発症前の牛乳」、「合乳の廃棄処分」、「同居牛の牛乳の出荷停止」等、莫大な被害をもたらします。

### 原因と症状！

- ★急性の伝染病で、感染した牛は突然高熱（41℃～42℃）を発生し、1～3日後に死亡します。
- ★天然口（鼻、口、肛門）から凝固不全の暗赤色タール様出血がみられます。

### 炭疽病かな？と思ったら・・・。

- ★日頃から牛の健康状態に目を配り、牛の異常に気づいた場合は、速やかに最寄りの獣医師、家畜保健衛生所又は、地方振興事務所に連絡して下さい。
- ★宮城県では昭和57年、58年に連続で発生し、酪農組合等の強い要望により徹底したワクチン接種が実施され、現在まで発生がありません。（平成3年に和牛での発生がありました。）

(家畜衛生課)

## NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬（盛岡・水沢開催）5・6月 開催予定表

・上段 岩手競馬開催日 ・下段 場外発売開催日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
6月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
	盛岡							盛岡						盛岡						盛岡											盛岡

### ※開催期間中の重賞レース

- ・5/5(月) 第20回かしわ記念(船橋) ・5/6(火) 第10回かきつばた記念(名古屋) ・5/25(日) 第25回東海ステークス(JRA中京)
- ・5/28(水) 第12回さきたま杯(浦和) ・6/7(土) 第13回ユニコーンステークス(JRA東京)
- ・6/18(水) 第44回関東オークス(川崎) ・6/19(木) 第12回北海道スプリントカップ(旭川)
- ・6/25(水) 第31回帝王賞(大井)

## 「平成20年度畜産物価格関連対策が決定しました」

### 宮城県農林水産部畜産課

農林水産省は2月21日に平成20年度の畜産物価格関連対策を決定しました。飼料価格高騰等による畜産経営の厳しい状況を踏まえ、指定食肉の安定価格をはじめ全ての政策価格を引き上げたほか、関連対策でも多くの緊急対策が講じられます。

酪農関係では、加工原料乳生産者補給金単価は前年度から1円引き上げられ11円55銭となりました。限度数量は3万トン削減されたものの、外枠として最大12万トンに補給金額と同額が交付されます。

都府県の酪農家向けには「都道府県酪農緊急経営強化対策事業」が創設され、3年間の生産性向上計画を作成し自給飼料の拡大など生産性向上の取り組みを行う酪農家に対して16,500円/頭・年(生乳2円10銭/kg相当)の助成金が交付されます(平成20年度)。また、4月からの牛乳値上げの影響で飲用需要が低迷した場合に備え、生産者団体が行うとも補償として、生産者と国が資金を積み立て飲用牛乳供給が減少した場合に20円/kg以内で補てんする「生乳計画生産円滑化支援事業」が創設されました。

肉用牛関係については、肉用子牛生産者補給金制度における指定肉用子牛の保証基準価格・合理化目標価格が全ての品種で引き上げられました(別表)。

肥育牛関係では、枝肉価格の低迷や飼料高騰により収益性が低下しているため、肉用牛肥育経営安定対策事業の補完対策として、粗収益が物財費割れとなった場合に国が物財費を下回る額の6割の補填を行う「肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業」(平成20、21年度)が実施されます。

養豚関係では、養豚経営の安定を支援するため、地域肉豚生産安定基金造成事業の地域保証価格が平均70円/kg引き上げられました。

飼料価格高騰の影響緩和対策として、生産効率改善、労働力軽減、飼料費低減に対する取り組み支援のため、生産性向上に資する機械等を対象として、導入費用の1/3を助成する「畜産経営生産性向上支援リース事業1/3補助付きリース事業」のほか、地域における肉用牛と養豚経営での生産性向上目標の達成に必要な器具機材の整備に対する補助制度が創設されました。

また、自給飼料生産対策として、飼料用米や青刈りトウモロコシ・ソルガムの作付けに対する支援が拡充されました。

#### 指定食肉の安定価格

(単位：円・kg)

		平成19年度	平成20年度
牛肉	上位安定価格	1,010	1,025
	安定基準価格	780	790
豚肉	安定上位価格	480	515
	安定基準価格	365	380

#### 指定肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

(単位：円/頭)

		平成19年度	平成20年度
保証基準価格	黒毛和種	304,000	305,000
	褐毛和種	280,000	281,000
	その他の肉専用種	200,000	201,000
	乳用種	110,000	113,000
	交雑種	175,000	178,000
合理化目標価格	黒毛和種	267,000	268,000
	褐毛和種	246,000	247,000
	その他の肉専用種	141,000	142,000
	乳用種	80,000	83,000
	交雑種	135,000	138,000

(企画管理班 遠藤 潤)



## 平成20年度肉用牛現場後代検定牛の産子取得交配（調整交配）について

## 宮城県農林水産部畜産課

## 1. 調整交配の概要

平成20年度肉用牛集団育種推進事業の一環として実施します現場後代検定材料牛取得のための調整交配は、下記の日程での実施を計画しております。

第7回第1次 交配期間：平成20年10月1日～平成20年11月30日  
精液配布：平成20年9月

第7回第2次 交配期間：平成20年12月1日～平成21年1月31日  
精液配布：平成20年11月

交配され、生産された産子につきましては、後日巡回調査を行い、1種雄牛当たり20頭を現場後代検定材料牛として選定する予定です。調整交配が円滑に進められますよう、県内各和牛改良組合及び改良組合より指定を受けました、獣医師及び家畜人工授精師の方々のご理解とご協力をお願いいたします。

## 2. 平成20年度調整交配種雄牛について

平成20年度は、産肉能力直接検定で総合的に評価され、宮城県肉用牛改良委員会で選抜された4頭の種雄牛の調整交配をお願いします。

検定回次	名号	生産地	父牛	母の父	母の母の父	直検期DG	期待育種価	改良上の目的、特徴
第7回 1次	なだ かつ み 思 勝 美	石巻市河南	茂勝	平茂勝	忠福	1.29	AAABAA	母牛は枝肉重量の育種価が、県内繁殖牛の上位2.5%以内に入る「平茂勝」の娘牛。体積・均称に優れ、増体性を兼ね備えた「茂勝」の後継種雄牛として選抜された。
	かみ かく ひで 神 福 英	美里町南郷	神勝福	第2波茂	茂糸波	1.28	BABCAB	「茂重波」の血統を色濃く受け継ぎ、発育・体積に優れる種雄牛。母牛の体型審査得点は84.1と高く、本牛は、第9回全共で優等賞入賞を果たすなど、体型の改良も期待される。
第7回 2次	やす ひら かつ 安 平 勝	登米市南方	安福	平茂勝	北国7の8	0.86	AAAAAA	母牛は枝肉重量の育種価が県内繁殖牛の上位2.5%以内に入る。「安福」を父に持つ種雄牛であり、「茂重波」の血量は3.1%と低く、県有種雄牛の娘牛への交配に期待される。
	ひら しげ ぎら 平 茂 桜	栗原市金成	平茂勝	茂糸桜	平茂勝	1.32	ABACBA	母牛はBMSの育種価が県内繁殖牛上位2.5%以内に入り、増体能力の高い「平茂勝」との交配により作出された本牛は、質量兼備の産子生産が期待される。

期待育種価は左から枝肉重量、ロース芯面積、バラの厚さ、皮下脂肪厚、枝肉歩留、脂肪交雑の指標

## 3. 調整交配に伴う助成措置等

1) 調整交配に御協力を頂いた生産者には、次の助成措置を行っています。

- ① 1頭の交配予定の繁殖牛に対し、3本の凍結精液を無償で配布しています。
  - ② 調整交配を実施した繁殖牛に対し、1頭あたり24,000円の助成。  
(H17.1.1以降生まれの雌牛に交配した場合、1頭あたり6,000円上乗せ)
  - ③ 検定牛産子を子牛登記した場合、1頭あたり30,000円の助成。
  - ④ 検定牛産子が、検定材料牛として選定された場合、1頭あたり50,000円の助成。
  - ⑤ 検定牛産子が、検定材料牛として選定されなかった場合、1頭あたり48,000円の助成
- このうち、③、④は、種雄牛造成推進協力金から、(社)宮城県畜産協会により助成金が交付されます。

2) 調整交配に協力いただいた場合の利点

- ① 検定材料牛に選定されれば、その母牛の育種価が判明します。(そのため、県では、育種価の早期判明のために平成17年1月1日以降生まれの雌牛への交配を推奨し、助成金を上乗せする措置をとっています。)
- ② 検定牛産子の状態を、基幹種雄牛に選抜される前の段階で把握することができます。

(生産振興班 猪股 永治)



〈畜試便り〉

新しい飼料作物奨励品種の紹介

宮城県畜産試験場

飼料用トウモロコシは各種苗メーカーより多数の品種が販売されており、農家の方がその中から品種特性を活かしながら地域にあったものを選定することはなかなか困難です。

畜産試験場では、県内に適した飼料用トウモロコシの選定を実施するため、品種適応試験の栽培により生育特性や生産性を調査しています。

今回は新しく飼料作物奨励品種になった飼料用トウモロコシ2品種について紹介します。

1) パイオニア115日 (34B39)

当試験場の試験(3年間)では、相対熟度(RM:発芽~黄熟期までの日数)が119日(メーカーRMは115日)の中生品種です。県の奨励品種になっているゴールドデントKD640(KD640)より1日早く、栽培試験の標準品種として使用したパイオニア115日(セシリア)と同程度となりました。

発芽揃いが良く、初期成育は並です。稈長は眺めですが、着雌穂高が低く、耐倒伏性に優れています(表1)。

耐病性については、ごま葉枯病や紋枯病に強い結果となりました(表2)。

収量性では、標準品種の乾物収量を上回り、中晩生品種と同程度です。また、栄養収量であるTDN(可消化養分総量)収量にも優れています(表3)。

ただし、アワノメイガ等の虫害が標準品種より受けやすい(表2)。

2) スノーデント115 (SH4681)

当試験場の試験(3年間)では、相対熟度(RM:発芽~黄熟期までの日数)が119日(メーカーRMは115日)の中生品種です。

発芽揃いが良く、初期成育に優れています。稈長はやや長めですが、着雌穂高が低いものの耐倒伏性では標準品種に劣りました。平成19年は台風9号により、この時期に登熟を迎えた中生品種の倒伏が多くなりました(表1)。

耐病性については、すす紋病、ごま葉枯病、根腐病に強い結果になりました(表2)。

収量性では、標準品種の乾物収量を上回り中晩生品種と同程度です。また、乾物中に占める雌穂割合も高く、栄養収量であるTDN(可消化養分総量)収量にも優れています(表3)。

上記2品種の栽培にあたって注意すべき点は、栽培密度を高くすると稈径が細くなり倒伏しやすくなることや、すす紋枯病や紋枯病等の病害発生の原因になることから、栽培密度を両品種とも10a当たりで7千本前後にすることです。

表1 生育特性

品 種 名	発芽良否	初期生育	稈 長 (cm)	着雌穂高 (cm)	着雌穂高/ 稈長	倒伏割合 (%)	折損割合 (%)
パイオニア115日 (34B39)	7.2	4.7	263	123	0.467	1.8	17.1
スノーデント115日 (SH4681)	7.9	6.5	252	120	0.476	9.2	8.4
パイオニア115日 (セシリア) (標準)	7.3	5.0	233	119	0.511	4.7	16.4

注:発芽の良否、初期成育は極良を9、極不良を1とする評点法

表2 病虫害の程度

品 種 名	ごま葉枯病 (1~9)	すす紋病 (1~9)	黒穂病 (%)	根腐病 (%)	紋枯病 (%)	虫 害 (%)
パイオニア115日 (34B39)	2.1	1.7	0.0	2.9	1.7	37.8
スノーデント115日 (SH4681)	1.9	2.1	0.0	2.0	3.5	26.3
パイオニア115日 (セシリア) (標準)	2.3	4.6	0.0	3.4	2.1	22.6

注:ごま葉枯病、すす紋病 被害面積に応じて無を1、甚を9とする  
黒穂病、根腐病、紋枯病、虫害は罹病又は被害個体の全個体に対する割合

表3 収量性

品 種 名	乾物収量 (kg/10a)			乾物雌穂重 割合 (%)	TDN収量※ (kg/10a)
	茎 葉	雌 穂	総 重		
パイオニア115日 (34B39)	1,121 (139)	1,121 (116)	2,237 (126)	50.2	1,587 (125)
スノーデント115 (SH4681)	1,046 (129)	1,162 (120)	2,194 (123)	53.3	1,560 (123)
パイオニア115日 (セシリア) (標準品種)	809 (100)	970 (100)	1,780 (100)	54.9	1,265 (100)

(注)平成17~19年の平均値  
乾物収量及びTDN収量の欄の( )内は、標準品種を100とした場合の比。  
※推定TDN収量=乾物茎葉重\*0.56+乾物雌穂重\*0.82(宮畜方式)

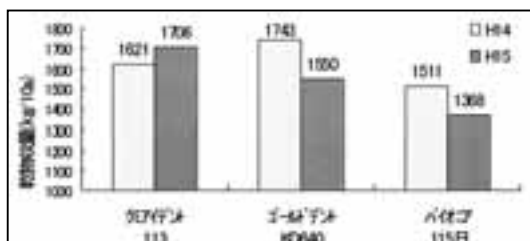


図1 乾物収量

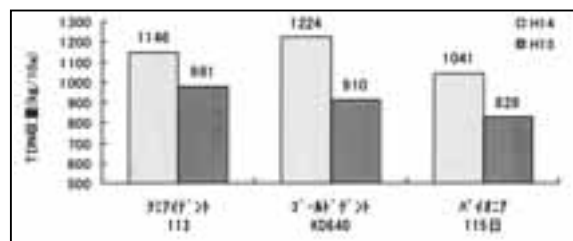


図2 TDN収量

## 〈衛生便り〉

『トリアシカイセンダニ症』を  
ご存じですか

登米家畜保健衛生所

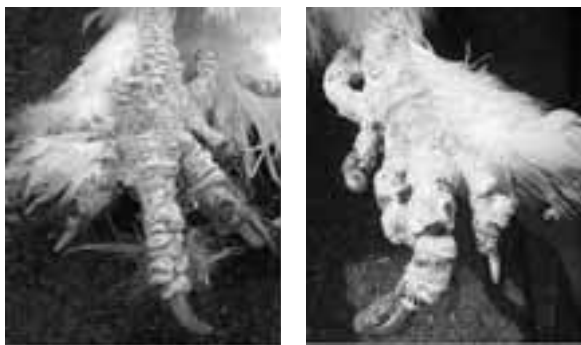
トリアシカイセンダニ (*Knemidocoptes mutans*) は、鳥類の脚鱗に白～黄白色のガサガサな痂皮をつくります。軽症の場合は、それほど健康に影響はありませんが、重症になると足が変形したり、爪や指が脱落して、元気がなくなることもあります。採卵鶏の場合、産卵低下や停止を招く場合もあるので、注意が必要です。

登米家畜保健衛生所では、平成19年4月に実施した病性鑑定で、管内烏骨鶏にトリアシカイセンダニがいることを知り、烏骨鶏飼養農家15戸を調査したところ5戸に本症の存在を確認しました。また、本症は烏骨鶏に限らず、飼養鶏にも感染することがわかりました。

本症の治療には、殺ダニ剤を使用することが効果的ですが、鶏卵や鶏肉への残留などの問題もあるので、獣医師の診断と治療が必要になります。

飼養鶏の衛生管理を徹底することでストレスを少なくしたり、ビタミンAが不足しないよう青菜を与えることで免疫を高めたり、様々な病気に負けない強い体をつくりましょう。

飼養鶏に異常を認めた際は、かかりつけの獣医師、もしくは、お近くの家畜保健衛生所までご相談下さい。



脚鱗に痂皮形成しています  
右写真の烏骨鶏の指は脱落してしまいました  
【図1】発症烏骨鶏



ダニは小さいので肉眼では見えません  
【図2】トリアシカイセンダニ

(防疫班 小寺 文)

## 〈実践大学校生の抱負〉

## 私の将来の夢

宮城県農業実践大学校畜産コース  
2年 湯山 誠也

私の家(大崎市鳴子温泉)では、肉用牛(繁殖牛15頭、育成牛3頭)と水稲0.96haを営む複合経営農家です。私はこの宮城県農業実践大学校を卒業した後は、社会経験を積むことと就農へ向けた資金準備のために農業に関連した会社へ就職したいと考えています。しかし、就職したい会社を未だに決めていない状況なので今にでも求人調べ、自分の理想に近い就職場所を一早く選定したいと思っています。

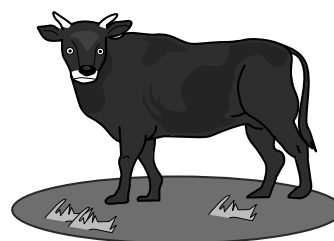
そして、就農時は、その資金で畜舎を増築し、現在の頭数をより増頭させ、繁殖母牛50頭を目指し努力したいです。

そして、就農時は、その資金で畜舎を増築し、現在の頭数をより増頭させ、繁殖母牛50頭を目指し努力したいです。

早いもので、宮城県農業実践大学校の畜産コースに入学して一年が過ぎました。私は入学当初から目標にしていた、家畜人工授精師と削蹄師の資格取得を目指しています。家畜人工授精師に関しては、私の住んでいる地域ではこの資格を取得している人が少なく人工授精を行う際は、近くの人工授精師の方を呼び行こうのが現状です。そこで私が人工授精師の資格を取得し、我が家や地域の農家さんに少しでも貢献したいと思います。また削蹄師に関しても、人工授精師と同様、資格を取得している人が少ないため取得している削蹄師の方に頼んでいます。私が削蹄師の資格を活用して将来は、まずは我が家の牛を削蹄できるように経験を積んで行きたいと思っています。

そのためには、学校での講習は積極的に取り組み、これらの技術を身につけたいです。

今は、同じ目標を持ち合った仲間たちと日々、勉学に励んでいます。むしろそれがお互いを高め合い、切磋琢磨し合えるのでしょう。そこで自分も共に努力し頑張りたいと思っています。



〈人の動き〉

宮城県

退職 (3月31日付) 農林水産部技術参事 (監視伝染病対策担当)  
 退職 (3月31日付) 農林水産部技術副参事

田 中 廣  
 黒 須 敏 夫

(平成20年 4月 1日付)

新	旧	氏 名
畜産課長	仙台家畜保健衛生所長	峯 岸 こ う
部技術副参事 (監視伝染病対策担当)	大崎家畜保健衛生所監視伝染病対策専門監	佐 藤 尚
副参事兼課長補佐 (総括担当)	古川農業試験場副参事兼次長	遠 藤 善 典
畜産課技術補佐 (総括担当)	石巻地域振興事務所畜産振興部技術次長 (班長)	山 田 稲 生
畜産課技術補佐 (班長)	登米家畜保健衛生所技術次長 (班長)	佐々木 吉 一
畜産課技術補佐 (班長)	栗原地方振興事務所畜産振興部技術次長 (班長)	柴 崎 卓 也
畜産課技術主査	登米家畜保健衛生所技術主査	清 水 俊 郎
畜産課技師	新規採用	板 橋 知 子
大河原家畜保健衛生所長	大崎家畜保健衛生所長	川 村 芳 夫
大河原家畜保健衛生所技術次長	大崎家畜保健衛生所技術次長	阿 部 博 行
大河原家畜保健衛生所技術主査	畜産試験場研究員	千 葉 和 義
大河原家畜保健衛生所技術主査	栗原地方振興事務所畜産振興部技師	山 田 治
仙台家畜保健衛生所所長	大河原家畜保健衛生所長	小野寺 千 一
仙台家畜保健衛生所監視伝染病対策専門監	食肉衛生検査所技術副参事兼次長	鈴 木 寿 郎
仙台家畜保健衛生所主幹	保健環境センター主任主査	小 松 光 世
仙台家畜保健衛生所技師	石巻地域振興事務所畜産振興部技師	高 森 広 典
北部家畜保健衛生所長	登米家畜保健衛生所長	佐々木 和 夫
北部家畜保健衛生所次長 (総括担当)	畜産課技術補佐 (班長)	大 場 実
北部家畜保健衛生所技術主幹	食肉衛生検査所技術主幹	高 橋 伸 和
北部家畜保健衛生所主任主査	大河原家畜保健衛生所主任主査	石 澤 勝 嘉
北部家畜保健衛生所主任主査	富県宮城推進室技術主査	鈴 木 徳 彦
北部家畜保健衛生所技術主査	仙台保健福祉事務所岩沼支所技術主査	黒 田 洋 子
北部家畜保健衛生所技師	新規採用	曾 地 雄 一
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部次長 (総括担当)	仙台地方振興事務所技術次長	菅 原 英 俊
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術主幹 (班長)	畜産課技術主幹	橋 本 和 広
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部主任主査	大崎家畜保健衛生所主任主査	大 沼 篤
東部家畜保健衛生所長	石巻地域振興事務所畜産振興部長	大 久 昇 悦
東部家畜保健衛生所技術次長 (班長)	畜産試験場主任研究員	吉 野 淳 良
東部家畜保健衛生所主任主査	畜産試験場副主任研究員	石 黒 裕 敏
東部家畜保健衛生所主任主査	大崎家畜保健衛生所主任主査	福 田 智 子
東部家畜保健衛生所主任主査	仙台家畜保健衛生所技術主査	及 川 俊 徳
東部地方振興事務所畜産振興部長	畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当)	横 山 亮 一
東部地方振興事務所畜産振興部技術次長 (班長)	畜産試験場上席主任研究員	小 堤 知 行
東部地方振興事務所畜産振興部技術主査	登米家畜保健衛生所技術主査	小 寺 文 夫
畜産試験場主査	栗原土木事務所主査	白 鳥 徳 章
畜産試験場酪農肉牛部長	農業実践大学校畜産学部長	佐 藤 利 夫
畜産試験場種豚家きん部長	登米地方振興事務所兼登米農業改良普及センター	高 橋 忠 宏
畜産試験場副主任研究員	気仙沼地方振興事務所兼本吉農業改良普及センター	阿 部 陽 介
畜産試験場技師	大河原地方振興事務所兼大河原農業改良普及センター	齊 藤 陽 介
畜産試験場技師	登米地方振興事務所兼登米農業改良普及センター	熊 田 修 之
畜産試験場技師	新規採用	阿 部 玲 佳
東部地方振興事務所登米地域事務所副所長	部技術参事兼畜産課長	浅 野 安 夫
農業振興課技術副参事兼課長補佐 (総括担当)	畜産課副参事兼課長補佐 (総括担当)	亀 井 雄 一
農業実践大学校畜産学部長	畜産課技術補佐 (班長)	中 鉢 正 信
北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興部兼栗原農業改良普及センター	畜産課技術主査	柴 田 知 也
大河原地方振興事務所農業振興部兼大河原農業改良普及センター	大河原家畜保健衛生所主任主査	安 達 裕 美
環境衛生部動物愛護センター	仙台家畜保健衛生所監視伝染病対策専門監	小山田 善治郎
総務部塩釜県勢事務所	仙台家畜保健衛生所主任主査	平 間 美 智子
東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部兼登米農業改良普及センター	栗原地方振興事務所畜産振興部技術副参事兼次長 (総括担当)	庄 司 真 知雄



## 全国農業協同組合連合会宮城県本部

退職（3月31日付）

畜産部事業管理グループ家畜診療所

深田 留美

(平成20年4月1日付)

新	旧	氏名
畜産部部长	畜産部次長	菅原 勝則
畜産部事業開発専任担当次長	畜産部事業管理グループリーダー	大友 良彦
畜産部次長兼総合家畜市場長	管理部付北日本くみあい飼料株式会社	高橋 修
畜産部事業管理グループリーダー	畜産部生産販売グループリーダー	佐々木 仁
畜産部事業管理グループ仙台食肉事務所長	畜産部	高川 信幸
畜産部生産販売グループリーダー	畜産部事業管理グループ仙台食肉事務所長	那須 正晃
畜産部	新規採用	熱海 幾哉
管理部付(株)宮城県食肉流通公社出向	管理部付王子製袋株式会社出向	佐藤 文
管理部付王子製袋株式会社出向	畜産部部長	鈴木 信行
園芸部	畜産部	西城 修

## 宮城県農業共済組合連合会

退職（3月31日付）

家畜診療研修所技術主査

高橋 幸子

(平成20年4月1日付)

新	旧	氏名
家畜部次長	県北家畜診療センター診療課長	佐々木 弘志
県南家畜診療センター所長兼庶務課長	中央家畜診療センター所長	木村 有
中央家畜診療センター所長	県南家畜診療センター所長	熊谷 敏信
県北家畜診療センター次長兼庶務課長	家畜部審査役	菅野 芳男
家畜診療研修所次長兼診療指導課長	家畜診療研修所次長兼庶務課長	渡辺 昭夫
家畜診療研修所損防指導課長	家畜診療研修所指導課長	一條 俊浩
家畜診療研修所損防指導課技術主査	中央家畜診療センター診療課技術主査	川村 喜正
中央家畜診療センター診療課長補佐	県北家畜診療センター診療課長補佐	木村 喜正
県北家畜診療センター庶務課長補佐	中央家畜診療センター庶務課長補佐	三浦 了子
県北家畜診療センター診療課	中央家畜診療センター診療課	加納 茂太
家畜診療研修所	新規採用	木南 藍子
家畜診療研修所	新規採用	小山 真琴
家畜診療研修所	新規採用	石井 豊希

## 社団法人 宮城県畜産協会

退職（3月31日付）

常務理事

菅原 和宣

家畜衛生課囑託

谷津 邦郎

(平成20年4月1日付)

新	旧	氏名
常務理事	事務局兼家畜衛生課長	秀島 理明
事務局兼家畜衛生課長	経営支援課長	山田 文彦
経営支援課長	経営支援課技術主幹	安部 俊也
経営支援課課長補佐	総務課課長補佐	石川 正志
家畜改良課課長補佐	仙南事業所次長	大場 静子
中央事業所	経営支援課	北谷 せつよ
家畜衛生課	中央事業所	猪狩 節子
価格安定課	家畜改良課	伊藤 利樹
家畜改良課	価格安定課	早坂 翔太